

問題・解答
用紙番号

27

の解答用紙に解答しなさい。

世 界 史

〈受験学部・学科〉

3 科目型 受験者

法学部，国際学部，経済学部，経営学部，現代社会学部，
農学部【文系科目型】(食農ビジネス学科)

問題は100点満点で作成しています。

I

君主と文化に関する次の文章(A)～(C)を読み，あとの設問に答えよ。(40点)

(A) ヨーロッパで人間性の自由・解放を求め，各人の個性を尊重しようとする文化運動，つまりルネサンスがまずイタリアで展開した。なかでも， (1) 家を輩出した^(a) フィレンツェは重要である。 (1) 家は，「ヴィーナスの誕生」や「春」などの作品で有名な (2) らを庇護した。ローマのサン=ピエトロ大聖堂の改修費のために，贖宥状の販売を認めた^(b) 教皇レオ10世も (1) 家出身である。ルネサンスはヨーロッパ各地にも広がり，フランスでは^(c) フランソワ1世が^(d) レオナルド=ダ=ヴィンチを宮廷にまねいた。イングランドでは，^(d) エリザベス1世の治世から活躍していた (3) が『ハムレット』や『オセロー』など多くの戯曲を残した。

(B) 人間の理性に重きをおき，迷信や偏見を打破しようとする啓蒙思想は，フランスを中心に広がった。代表的な啓蒙思想家として『法の精神』を著した (4) や『社会契約論』を著したルソーが挙げられ，ディドロやダランベールらが編集した『 (5) 』はフランス啓蒙思想家たちの思想を集大成したものである。ヨーロッパの東部では，啓蒙思想の影響を受けたプロイセンのフリードリヒ2世，オーストリアのヨーゼフ2世，ロシアの^(e) エカチェリーナ2世がさまざまな改革をおこない，啓蒙専制君主として知られている。フリードリヒ2世はポツダムにロココ様式を取り入れた (6) 宮殿をたて，そこにヴォルテールをまねいた。

(C) フランク王国の (7) 朝の カール大帝 は領土を広げ、西ヨーロッパの主要部分を支配下におき、教皇 (8) によりローマ皇帝の帝冠を与えられた。さらに、学芸の奨励にも力を入れた君主として名高い。カール大帝は宮廷に多くの 学者 をまねいて、ラテン語や神学、法律などの学芸を奨励した。こうしたカール大帝の宮廷を中心とした文芸復興を (7) = ルネサンスという。

問 1. 空欄 (1) ～ (8) にもっとも適切な語を記入せよ。

問 2. 下線部(a)～(g)について、以下の問いに答えよ。

(a) フィレンツェの位置はどこか。地図中の記号㉗～㉕から正しいものを一つ選べ。



(b) 教皇に関する説明のうち、誤っているものを一つ選べ。

- ㉗ 教皇ウルバヌス 2 世は、十字軍派遣のきっかけとなるクレルモン宗教会議を招集した。
- ㉘ 聖職者への課税に反対して、教皇ボニファティウス 8 世はフランス王にとらえられた。
- ㉕ 1122年のヴォルムス協約により、教皇は聖職者の任命権のすべてを皇帝に奪われた。
- ㉙ イタリア諸都市では教皇党と皇帝党の争いがおき、教皇党はゲルフと呼ばれた。

Ⅱ 次の文章を読み、あとの設問に答えよ。(30点)

漢（前漢）は前154年に (1) の乱を鎮圧し、前2世紀後半の武帝の頃までに中央集権化をはたした。漢は、北方では匈奴の撃退をはかって、大月氏に (2) を派遣した。また東方では (3) を滅ぼして楽浪郡など4郡をおき、南方では南越を滅ぼして南海郡など9郡をおいた。しかし、漢は一連の対外戦争の負担によって財政難におちいり、武帝は財政再建のため、塩・鉄・酒の専売や均輸・平準法を実施した。武帝の死後、皇帝側近の外戚や宦官が実権をにぎろうとして争い、1世紀初めに外戚の王莽が皇帝の位を奪って新をたてた。しかし、儒教に基づく復古主義的な王莽の政治は時代にあわず、^(a)各地で反乱がおき、かわって漢の一族の劉秀が (4) を都として漢を復興した（後漢）。後漢では、のちに班超が西域都護となって、部下の甘英を^(b)大秦国に派遣した。しかしその後、^(c)中央の政治は乱れ、自然災害などに対応できず、飢饉があいついだ。こうしたなか、張角を指導者とする (5) は華北で農民を集めて武装化し、大規模な反乱をおこした。この反乱をきっかけに、各地に武装勢力が割拠して、後漢は220年に滅んだ。

高宗の時代に勢力を中央アジアまで拡大し、世界帝国となった唐も、反乱を経て滅亡した。7世紀末、高宗の皇后であった (6) が帝位につき、一時、国号を周と称した。玄宗は (6) の死後の混乱をおさめて即位し、国政の改革につとめた。8世紀に入ると、唐の支配体制は大きくかわり、府兵制にかわって傭兵をもちいる (7) 制が採用され、その軍団の指揮官である節度使が辺境の防備にあたるようになった。玄宗の晩年に楊貴妃の一族が実権をにぎったのに対し、北方の3節度使を兼任したイラン系ソグド人の (8) と武将の史思明が反乱をおこした。この反乱は節度使やウイグルの援軍を得て鎮圧されたが、以後、節度使は内地にもおかれるようになり、財政・行政権をにぎって軍閥（藩鎮）として各地に割拠した。唐は塩の専売制を実施し、租調庸制にかわって兩税法を採用して、財政再建をはかった。しかし、すでに751年にはタラス河畔の戦いで (9) 朝に敗れ、ウイグルや^(d)吐蕃の侵入もしばしばおこり、唐の領土は大幅に縮小していた。9世紀後半、塩の密売人がおこした反乱は全国に広がり、907年、節度使の (10) が^(e)後梁をたて、唐は滅亡した。

問1. 空欄 (1) ～ (10) にもっとも適切な語を記入せよ。

問2. 下線部(a)～(e)について、以下の問いに答えよ。

(a) この反乱を何と呼ぶか。正しいものを一つ選べ。

- | | |
|-----------|--------|
| ㉠ 黄巾の乱 | ㉡ 赤眉の乱 |
| ㉢ 陳勝・呉広の乱 | ㉣ 八王の乱 |

(b) 大秦国はどこをさすとされるか。正しいものを一つ選べ。

- ㊦ クシャーナ朝 ㊧ パルティア ㊨ マガダ国 ㊩ ローマ帝国

(c) このとき中央の政治が乱れた理由とされるものを一つ選べ。

- ㊦ 焚書・坑儒による思想統制がおこなわれたため。
㊧ 胡服の禁止などの積極的な漢化政策がすすめられたため。
㊨ 宦官が反対派の官僚や知識人を弾圧する事件がおこったため。
㊩ 王安石らの新法党と司馬光らの旧法党の党争がおこったため。

(d) 吐蕃をたてたのは誰か。正しいものを一つ選べ。

- ㊦ 大祚栄 ㊧ ソンツェン＝ガンボ
㊨ ハルシャ王 ㊩ ムアーウィヤ

(e) 後梁の都はどこか。正しいものを一つ選べ。

- ㊦ 長安 ㊧ 汴州（開封） ㊨ 建康 ㊩ ラサ

世界史上の書物に関する次の文章(1)～(15)には、下線部が正しいものと正しくないものがある。

正しいものについてはアを、正しくないものについてはイ～オからもっとも適切なものを選べ。

(30点)

(1) 新バビロニアの滅亡でバビロン捕囚から帰国した人々は、イェルサレムにヤハウェ（ヤーヴェ）をまつる神殿を再興してバラモン教を成立させた。その聖典がいわゆる『旧約聖書』であり、おもにヘブライ語で記された。

① キリスト ② マニ ③ ミトラ(ス) ④ ユダヤ

(2) イラン高原南部のファールス地方を本拠としたイラン系の王朝ナンダ朝（224～651年）では、ゾロアスター教が国教とされ、教典『アヴェスター』が編纂された。

① アケメネス ④ ヴァルダナ ⑤ ササン ⑥ マウリヤ

(3) グプタ朝期には、サンスクリット文学が花開いた。北インドのある民族内の王位をめぐる争いを描いた大叙事詩『シャー=ナーメ (王の書)』や、コーサラ国のラーマ王子の冒険をうたった叙事詩『ラーマヤナ』がこの頃に現在の形にまとめられ、ともにサンスクリット語で書かれた。

① イリアス ⑤ オデュッセイア

(エ) マハーバーラタ (オ) リグ=ヴェーダ

(4) 東晋の僧法顕は、陸路でインドに入り、滞在したのち、スリランカを訪れた。そして、海路で帰国するまでの見聞記として『南海寄帰内法伝』を著した。同書は仏教史のみならず、西域・インド・南海諸国の当時の事情を記した貴重な史料とされている。

① 西遊記 ② 旅行記（三大陸周遊記） ③ 大唐西域記 ④ 仏国記

(5) 家族道徳を基本にして礼による社会秩序の実現を説く儒家の祖となった孔子は、為政者にも仁徳をもって統治することを求めた。彼の死後、その言行などは弟子たちによって『楚辞』にまとめられた。

① 漢書 ② 詩經 ③ 春秋 ④ 論語

(6) イル=ハン国の第7代君主フビライは、宰相ラシード=アッディーンにモンゴルの歴史を中心としたユーラシア全般の世界史である『集史』を編纂するように命じた。同書はペルシア語で書かれた。

- ① オゴタイ ㊦ ガザン=ハン ㊥ サラディン ㊧ プラノ=カルピニ

(7) イブン=アブドゥル=ワッハーブは、11世紀にギリシア・アラブの医学理論と臨床的知見とを集大成した『医学典範』を著した。同書はラテン語に翻訳され、最先端科学としてヨーロッパの医学に大きな影響を与えた。

- ① イブン=シーナー ㊦ イブン=サウード
㊥ イブン=ハルドゥーン ㊧ イブン=ルシュド

(8) 中世の神学者でパリ大学教授ウィリアム=オブ=オッカムは、教父アウグスティヌス以来の信仰の超越性にアリストテレス哲学による理性を調和させ、スコラ学を大成した。彼の代表的著作として中世キリスト教神学を体系的に解説した『神学大全』が挙げられる。

- ① アベラール ㊦ セルバンテス
㊥ トマス=アクィナス ㊧ ロジャー=ベーコン

(9) イブン=バットゥータは、1271年にヴェネツィアを出発し、元につかえたのち、1295年に帰国した。その後、彼はこの旅行での経験・伝聞を口述し、『世界の記述（東方見聞録）』が成立した。同書は、13世紀のユーラシア大陸に関する記録としてのちのヨーロッパ人のアジア認識に影響を与えた。

- ① アメリゴ=ヴェスプッチ ㊦ ヴァスコ=ダ=ガマ
㊥ バルトロメウ=ディアス ㊧ マルコ=ポーロ

(10) イギリスの政治家・人文主義者トマス=モアは『ユートピア』を著した。同作品で彼は、平等で精神性に富んだ架空の理想社会ユートピアを描くことで現実の社会を風刺し、当時イギリスで進行していた「囲い込み」などを批判した。

- ① エラスムス ㊦ ホルバイン ㊥ マキアヴェリ ㊧ モンテーニュ

(11) オランダの法学者・政治家ホッブズは、近代自然法を発展させて国際関係に応用し、国際法の発展に寄与したことから「近代国際法の祖」と呼ばれる。1625年には『戦争と平和の法』を発刊し、国が有する自然権や、戦時における各国の守るべき義務・権利などをのべ、国際法を体系化した。

- ① グロティウス ㊦ パスカル ㊥ ランケ ㊧ ロック

(12) 1776年、オーウェンは『コモン=センス（常識）』を出版した。彼は同書のなかで、アメリカ植民地はイギリスから搾取されるのみで何の利益も得ていないと訴え、独立をためらう植民地人の心を動かした。

- ① トマス=ジェファソン ㊦ トマス=ペイン
② フランクリン ㊧ ベンサム

(13) 1827年に『歌の本』を刊行したドイツのロマン派詩人ゲーテは、この作品で叙情詩人として名声を確立したが、七月革命に共感してパリに移住した。1840年代にマルクスと親しく交わり、「革命の詩人」と呼ばれた。

- ① イプセン ㊦ ハイネ ㊥ バイロン ㊧ ヘーゲル

(14) ロシアを代表する作家ドストエフスキーは、1866年刊行の『戦争と平和』で、殺人をおかした青年の反省と苦悩を題材に、時代の閉塞状況のなかでくすぶる人間回復への強烈な願望を訴えた。

- ① 赤と黒 ㊦ ガルガンチュアとパンタグリュエルの物語
② カンタベリ物語 ㊧ 罪と罰

(15) アメリカ合衆国の作家オーウェルは、1936～39年の人民戦線政府とフランコ將軍を中心とする右派の反乱軍とのスペイン内戦で国際義勇軍に加わって従軍し、そのときの経験をもとに『誰がために鐘は鳴る』（1940年）を著した。第二次世界大戦後に『老人と海』（1952年）を発表した。1954年にはノーベル文学賞を受賞した。

- ① ストウ ㊦ デューイ
② ヘミングウェイ ㊧ マルロー